

外国語科「コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ」授業実践紹介

授業者：瀧川 潤也

学 年：3年

単元名：「The Country that I Want to Visit」

本時のねらい

- ① 自分が興味のある国を紹介することで、「飛行機で〇〇時間かかります」「〇〇語が話されています」などの表現を使えるようになる。
- ② 自分が興味のある国の魅力を、写真を見せながら、「この国に行くと〇〇ができる／□□を食べられる」などの表現を使って、他者に分かりやすいように説明することができる。

単元の流れ

- ① グループ内で、どうしたらより良い原稿になるかの意見交換
- ② 各自で用意した写真を見せながらのクラス内発表
- ③ 発表後は、5時間の授業を振り返って、OPPシートの記入



②③④原稿の再作成と発表練習



単元のルーブリック

毎授業で、下のルーブリックの各観点ができているかを意識して活動しました。

	声の大きさ Volume of The Voice	単語と単語の滑らかさ Fluency	発話のスピード Speed	目線 Eye Contact	他者をひき付ける工夫 Ingenuity	最小限の情報 Minimum Information	補足の情報 Extra Information
5点	教室の最後尾にいる人にも、十分聞こえる。	1語1語を詰まらずに発話している。	速すぎたり、遅すぎたりせずに、聞き取りやすい発話のスピードである。	発表のほぼ全てを、スクリーンや用意してきた画像、他者を見ながらやる事ができた。	他者をひき付ける工夫があり、それが効果的である。	指定された4つすべての情報を発話できている。	発表内容に、根拠（理由）等の補足情報があり、それがよく理解できる。
3点	教室の最後尾にいる人に、ところどころ聞こえないが、ほぼ聞こえる。	ほぼ詰まらずに発話している。	速すぎたり、遅すぎたりすることもあるが、ほぼ聞き取りやすい発話のスピードである。	発表の半分程度を、スクリーンや用意してきた画像、他者を見ながらやる事ができた。	他者をひき付ける工夫があるが、効果的であるとまでは言えない。	指定された4つのうち、2つまたは3つの情報を発話できている。	発表内容に、根拠（理由）等の補足情報があるようだが、それがあまり理解できない。
0点	教室の最後尾にいる人に、ほとんどまたはまったく聞こえない。	ほとんどまたはすべて1語1語を区切って発話している。または、聞こえない。	速すぎたり、遅すぎたりして、聞き取りにくいスピードある。または聞こえない。	発表のほぼ全てを、原稿を見ながら行った。	他者をひき付ける工夫があるとは言えない。またはなかったり、聞こえない。	指定された4つのうち、1つの情報しか発話できていない。	発表内容に、根拠（理由）等の補足情報がない。または聞こえない。

単元を通して身につけてほしいこと

- ① 6年連続で外国人観光客が増えている岡山県。英語を使う機会はどんどん増えています。道案内をするときに使う可能性の高い、所要時間を表す表現（it takes ... hours）や、言いにくかったり聞き取りにくかったりする受け身（be動詞＋過去分詞形）などを、今よりも気軽に使えるようになってほしいです。
- ② 「自分が言いたいこと」と「相手に伝わること」はいつも一緒ではありません。相手にとって分かりやすいようにするには、長い文なら2文に分けたり、多くの人が知っている単語を使って書き直したりする必要があります。また、写真などを有効に使うことも大切です。英作文や発表練習を通して、「他者の立場になる」になって「自分の伝えたいことを伝える」態度や能力を身につけてほしいです。

実践の背景

- 岡山県でもグローバル化が進んでおり、和気町においても外国人労働者が増加している。また、本校は中国、韓国、台湾の高校と姉妹校提携を結んでおり、これから一層の交流が見込まれる。そのような中で、英語の正しさだけにとらわれず、「積極的に自分の考えを他者に分かりやすく伝えようとする態度と能力」を養うことを目標にして実践した。
- 国名は分かるが、その国の地理的な知識（場所・距離・言語等）を増やす必要のある生徒が多くいる。1人で多くの国のことを調べるのは非常に大変であるが、各自が調べたことをクラス全体に「発表」し、それを全員で共有させることで、前述の態度と能力に加えて、「他者の伝えたいことを理解しようとする態度と能力」も伸ばさせようと考え実践した。

授業改善のアプローチ

- 「生徒が主体的に興味・関心・意欲を持って取り組むには？」という考えを起点として、課題やルーブリック（評価基準）を設定し、生徒と共有を図った。
- ルーブリック作成時に最も重点を置いたことは次の2点である。1つ目は、「正しい英文法」よりも「英語を使って伝えたいことを相手に伝える気持ちや態度」、2つ目は、『聞き手が「それ、ほんと？」と思うような内容を入れること』である。
- 発表原稿の初稿ができた時に、「聞き手の観点」で原稿を読み直し、自己評価させた。その後、グループに分かれて、他者の原稿の良いところを参考にさせるようにした。
- 毎授業の終了5分前に、OPPシートを記入させることで、生徒の変容を把握した。また、「良い気づき」等をしている生徒のOPPシートを、次時の授業の最初にスクリーンに映し出し、クラス全員で共有し、まず、関心・意欲・態度の維持及び向上を図った。
- 発表時において聞き手の生徒に、発表者の発表内容で分かったことを付箋に記入させ、それを発表終了後に発表者に渡すことをさせ、発表時にも全ての生徒に役割を与えつつ、発表者に「伝えたかったこと」と「伝わったこと」の比較をさせた。

単元の構成

単元のヤマ場となる授業場面

第1次（1時間）
パフォーマンス課題の説明およびルーブリックの説明を行う。この際、課題に込められた意図、使わなければならない表現、評価のポイントを生徒と共有する。

第2次（1時間）
自分が作成した発表原稿を、「聞き手」になったつもりで読み直し、ルーブリックに基づいて自己評価を行う。その後、グループ内でそれぞれの自己評価を共有し、原稿のレベルアップにつなげる。

第3次（3時間）
原稿の追加及び修正や、発表時に使用する画像の印刷を行う。早く終わった生徒から、ルーブリックに基づき、発表練習を行う。

第4次（2時間）
写真を見せたりジェスチャーを加えたり、聞き手を見たりしながら発表を行う。意外な生徒が分かりやすい発表をしたり、たどたどしい英語だがジェスチャーを交えながら「分かる」発表をしたりした。

パフォーマンス課題

観光大使になったつもりで、行ってみたい国や地域についての発表を行うことができる。

- ①失敗を恐れずに、大きな声で相手の顔を見ながら発表を行う。
- ②発表者は、聞き手の立場となって発表を行う。
- ③聞き手は、分かったことを付箋に記入し、発表者にフィードバックする。

評価

次の2点で2学期中間の素点とした。

- ①毎授業のOPPシートに対する評価（30%）
- ②発表時の*ルーブリック評価（70%）

*ルーブリックは前ページの『授業のルーブリック』参照